日本SPF豚協会だより
Report of JAPAN SPF Swine Association 2009.4 第35号

提◆言

この厳しい環境を乗り切るために できることからやりましょう

日本ＳＰＦ豚協会 副会長
全農畜産サービス株式会社 代表取締役
峯苫　稔三

現在の飼料価格は、平成18年と比較すると１万円前後も高く、今後も高水準で推移することが予測されます。さらに、ここにきて世界同時不況の大波が日本をも巻き込み、全畜産物の国内消費の減退、円高による輸入品の増加などにより、かつてないほど在庫量が増加し、相場も低迷しています。そして、生産現場では呼吸器病・ＰＲＲＳ・ＰＭＷＳ等の複合感染疾病による生産性低下が大きな問題となっています。

私たちは、このような厳しい事業環境を乗り切っていかなければなりません。そのために、今日からできることから実行していきましょう。

まずは、生産面での提案をします。

当協会の20年度生産成績報告によれば、優秀な農場では１母豚当たりの年間離乳頭数27頭、年間肉豚出荷頭数26頭と素晴らしい成績を上げています。一方、協会認定農場全平均でみると離乳頭数23頭、肉豚出荷頭数21頭となっており、約５頭という大きな成績差となっています。平均以下の農場ではさらに大きな成績差となり、経営的にも大きな差が生じることになります。

優秀農場の管理をみてみると、その基本は当たり前のことを忠実にやりこなすことにあります。特別にウルトラＣの技術を駆使しているわけではありません。経営者・場長・従業員が心を一つにして、豚をよく観察し基本どおりの管理をやり抜いているようです。

現在の養豚は、種豚育成、交配、分娩、哺育・育成、肥育と、豚の日齢・月齢ごとの一連の管理に合せて、給餌、衛生、環境管理等多岐にわたる総合技術が必要となります。そういう面でも、一つ一つの技術を毎日毎日やりきることが最大のポイントであり、再度見つめなおすことを提案します。

その中で以下の点を重点的に見直したいものです。①交配技術（母豚の給餌管理、発情適期確認、深部注入ＡＩ、夏場の防暑対策等）、②分娩介護（介護分娩、分割授乳、中鎖脂肪酸の給与、保温管理の工夫等）、③離乳ショック防止（哺乳中の人工乳給与の工夫、離乳時の適切な保温や給水によるストレスの防止等）、④肉豚の給餌と出荷体重の管理（リキッド給餌等による飼料効率の大幅改善、オートソーティング等による肉豚管理・出荷管理の合理化）、⑤豚舎の環境管理（断熱と保温の工夫、新鮮な入気と埃排出、乾燥防止、適正飼育密度）、⑥農場衛生管理（疾病予防とワクチン接種、環境馴致技術確立、スリーセブン等の生産システムの導入）、以上が改善のポイントと考えます。

次に、販売問題について考えてみます。

再生産できる販売価格水準の実現は、生産サイドのもう一つの大きな課題です。会員の中には、すでに高い生産性と販売ニーズに適応した高い品質の豚肉を定時・定量供給できるシステムを確立している方もいますが、まだまだ相場に左右される経営体が多いと思います。販売強化の行動として、まずは全会員ができることから進められたらと考えます。

それは、①自らが国産ＳＰＦ豚肉の消費拡大の行動隊となり、ＳＰＦ豚肉の美味しさの情報発信者となる、②かんたん・美味しい豚肉料理のレシピの開発、③ＳＰＦ豚肉販売店の拡大（本誌にも事例が掲載されています）、などが考えられます。これらの取り組みで、販売サイドや消費者の理解と信頼を大きくしていきたいものです。自らが、自らの生産した豚肉の販売営業マンである、という意識と行動が必要です。

さらに、この難局を乗り切るためには、協会とその他団体との連携を密にして、国内養豚事業の経営維持対策等の要求も進めていくことも重要です。

SPF種豚と認定農場の分布

（2009年3月末現在）

表1. 認定農場の分布

飼養母豚数	北海道	東北	関東	北信越	東海近畿	中四国	九州	合計	母豚総頭数
99以下	2	0	8	0	0	3	0	13	911
100～299	7	8	30	6	2	4	10	67	12,670
300～599	4	6	6	3	1	8	6	34	14,644
600～999	2	13	4	2	0	2	5	28	22,233
1,000以上	0	8	2	0	0	1	7	18	24,686
計	15	35	50	11	3	18	28	160	75,144
育成・肥育専門農場	1	2	6	5	0	1	9	24	
合　計	15	37	56	16	3	19	37	184	75,144
母豚総頭数	4,962	26,285	13,567	3,812	218	7,118	19,182	75,144	

表2. 認定農場数および飼養母豚数の推移

年度	2004年度		2005年度		2006年度		2007年度		2008年度	
地域	農場数	飼養母豚数	農場数	飼養母豚数	農場数	飼養母豚数	農場数	飼養母豚数	農場数	飼養母豚数
北海道	15	4,141	14	4,035	15	4,482	15	3,590	15	4,962
東　北	30	18,170	31	18,949	31	19,018	35	23,227	35	26,285
関　東	59	16,682	57	16,522	57	17,315	57	14,327	50	13,567
北信越	12	3,111	10	2,937	10	3,019	11	3,782	11	3,812
東海近畿	2	983	2	815	2	813	2	792	3	218
中四国	21	7,124	21	7,245	20	7,007	16	6,569	18	7,118
九　州	33	17,025	33	19,867	35	21,374	32	19,439	28	19,182
育成・肥育専門農場			11		12		17		24	
全　国	172	67,236	179	70,370	182	73,028	185	71,726	184	75,144

昨年度同様、認定休止中の農場については、戸数は集計に含め、頭数は含めない。認定農場数は184（ＧＧＰ・ＧＰ農場22、子豚育成・肉豚肥育専門農場含む）、飼養母豚数は７万5,000頭強と、農場数は横ばいながら飼養頭数はかなりの増加をみた。これは廃業、退会する農場がある一方で、認定休止農場の復活およびＧＰ農場を含む大規模農場の新規認定があったことによる。地域別では北海道・東北地区の規模拡大が目立つ。また、農場の２サイト・３サイト化が進む中、子豚育成・肉豚肥育専門農場が増加している。

全国の飼養母豚数85.9万頭（平成20年８月現在、養豚経営動向調査）に占めるＳＰＦ豚の割合は約９％と、前年度より増加した。

ＣＭ認定農場の生産成績

（2008年度）

表1 一貫生産農場

	件数	母豚数	農場回転率		農場飼料要求率		出荷頭数／母豚		Ａ薬品費／肉豚		生産指数
	117	平均	実績	指数	実績	指数	実績	指数	実績	指数	
基準値			1.70	15.00	3.19	25.00	21.35	40.00	286	20.00	100.00
A	30	391	1.94	17.07	3.01	26.38	22.84	42.79	54	36.23	122.47
B	29	385	1.69	14.90	3.30	24.17	20.63	38.66	118	31.76	109.49
C	29	323	1.62	14.26	3.33	23.92	19.67	36.82	245	22.84	97.84
D	29	552	1.59	14.03	3.46	22.88	19.37	36.29	364	14.55	87.74
最高成績			2.27	19.99	2.76	28.37	26.12	48.94	1	39.92	134.21
最低成績			1.18	10.40	4.60	13.98	14.04	26.31	445	8.87	80.56
平均値		413	1.71	15.08	3.27	24.36	20.65	38.67	194	26.43	104.54

表2 繁殖専門農場－Ⅱ（分娩・離乳後、子豚を育成し出荷している農場）

	件数	母豚数	分娩回数／年		離乳頭数／母豚		出荷子豚数／母豚		A薬品費／子豚		生産指数
	9	平均	実績	指数	実績	指数	実績	指数	実績	指数	
基準値			2.30	20.00	22.53	20.00	21.43	40.00	282	20.00	100.00
A	3	1,253	2.40	20.87	22.58	20.05	21.91	40.89	48	36.61	118.42
B	2	1,164	2.32	20.15	22.49	19.96	21.97	41.01	153	29.12	110.23
C	2	531	2.39	20.74	23.33	20.71	20.46	38.19	229	23.78	103.43
D	2	234	2.31	20.10	21.55	19.13	19.62	36.62	241	22.93	98.77
最高成績			2.53	22.03	24.54	21.78	23.78	44.38	43	36.95	122.89
最低成績			2.09	18.16	18.96	16.83	17.21	32.12	338	16.05	96.91
平均値		846	2.36	20.53	22.50	19.97	21.09	39.37	154	29.05	108.90

表3 繁殖専門農場－Ⅰ（分娩・離乳後、直ちに子豚を出荷している農場）

	件数	母豚数	分娩回数／年		離乳頭数／母豚		出荷子豚数／母豚		A薬品費／子豚		生産指数
	4	平均	実績	指数	実績	指数	実績	指数	実績	指数	
基準値			2.30	20.00	22.53	20.00	22.53	40.00	196	20.00	100.00
平均値		981	2.39	20.77	24.67	21.90	24.67	45.50	133	30.55	118.73

表4 子豚育成農場（繁殖－Ⅰの離乳子豚を導入し、肥育用素豚として出荷している農場）

	件数	出荷頭数	1日平均増体重(g)		出荷率		A薬品費／子豚		生産指数
	2		実績	指数	実績	指数	実績	指数	
基準値			445.00	40.00	95.00	40.00	98	20.00	100.00
平均値		46,236	563.61	50.66	98.71	69.68	48	30.29	150.63

表5. 肥育専門農場－Ⅱ（繁殖－Ⅱまたは子豚育成農場から豚を導入し、肥育している農場）

	件数	出荷頭数	農場飼料要求率		出荷率		A薬品費／肉豚		生産指数
	12	平均	実績	指数	実績	指数	実績	指数	
基準値			3.30	55.00	97.50	25.00	125	20.00	100.00
A	3	9,072	3.07	58.74	98.93	39.30	81	27.07	125.11
B	3	15,080	3.10	58.33	98.64	36.37	157	14.91	109.61
C	3	15,020	3.62	49.72	97.68	26.79	158	14.72	91.24
D	3	4,993	3.99	43.19	97.28	22.84	139	17.70	83.70
最高成績			2.38	70.33	99.30	43.00	1	39.78	136.32
最低成績			4.11	41.55	96.63	16.30	216	5.51	80.59
平均値		11,041	3.45	52.49	98.73	31.32	134	18.60	104.23

繁殖農場を子豚の出荷時期によって繁殖－Ⅰ、繁殖－Ⅱに分類し、子豚育成農場とともに別途集計した。繁殖－Ⅰの農場から子豚を導入している肥育専門農場－Ⅰの認定農場は今のところない。

表6. 肉豚または子豚1頭当たりA薬品費使用

一貫生産農場

薬品費／肉豚	農場数	平均金額
100円未満	38	47
100円～199円	30	145
200円～299円	15	253
300円～399円	24	354
400円～499円	10	425
農場数	117	
最　高		1
最　低		445
上位25%の平均		54

繁殖専門農場・子豚育成農場

薬品費／子豚	農場数	平均金額
100円未満	6	55
100円～199円	6	142
200円～299円	2	250
300円～399円	1	338
400円～499円		
農場数	15	
最　高		30
最　低		338
上位25%の平均		48

肥育専門農場

薬品費／肉豚	農場数	平均金額
100円未満	3	48
100円～199円	6	140
200円～299円	3	207
300円～399円		
400円～499円		
農場数	12	
最　高		1
最　低		216
上位25%の平均		48

新連載
豚の細菌病⑥

豚マイコプラズマ肺炎③

東京農業大学教授　山本　孝史

対　策

マイコプラズマ肺炎の対策は、①飼養管理、②薬剤、③ワクチンの三つがあり、これらすべてを総合的に実施します。

飼養管理

協会だよりをお読みの方なら耳にたこができるほど聞かされ、よくご存じのことですが、マイコプラズマ肺炎対策の基本は何と言っても飼養管理ですので、あえて最初に持ってきました。先ず、感染環を断ち切るオールイン・オールアウト（ＡＩ／ＡＯ）は対策の基本です。豚群の組換えはストレスとともに感染機会を増大させますので最小限にします。飼育密度は0.7㎡／頭を確保するようにしてください。また、呼吸器には高温・多湿の環境が適していることを常に忘れないでください。換気と温度の二者択一を迫られたら、迷わず温度（高温）をとります。ハードサイズは呼吸器病のリスクファクターといわれていますが、その影響は報告によって異なり、ＡＩ／ＡＯを実施していれば神経質になることはありません。

表１　実験的マイコプラズマ肺炎に対する抗菌剤の効果

実験群	薬　剤	菌の分離率	病変保有率	病変値
1	50ppm	10/10	9/10	7.4*
2	100ppm	10/10	8/10	5.0**
3	無投薬	10/10	7/10	16.6

*,**：無投薬群との間に有意差あり（*：p<0.05, **：p<0.01）

薬　剤

Mhyopに有効な薬剤は、マクロライド系、テトラサイクリン系、ニューキノロン系等多くあります。通常は飼料添加剤として用いますが、効能書に書かれている濃度で期待できるのは、生産性の改善であり、感染を予防することはできませんし、ましてや感染してしまったMhyopを殺すことなど全く期待できません。表１にMhyopの実験感染に対するあるマクロライド系薬剤の効果をみた成績を示しました。この実験では、薬剤投与を開始した翌日にMhyopを経鼻感染させ、３週間後に剖検しました。投薬期間は１週間です。表１に示したように、薬剤を投与しない対照群のみならず、投与群のすべての豚からもMhyopが分離されています。また病変を保有する豚の割合も、対照群と薬剤投与群に差は認められませんでした。しかし、病変の程度は投薬群では対照群よりも軽度でした。このことが日増体重（ＤＧ）や飼料要求率の改善につながります。この点を確認するための野外試験の成績を表２に示しました。野外試験においても投薬群の病変値は対照群に比べて低値であり、出荷時の体重や飼料要求率も改善されていました。この野外試験では、１ヶ月齢で離乳した直後から１週間投薬し、以後２週休薬、１週投薬を２回繰り返しました。しかし、この投薬の時期は農場により異なります。感染が起きる時期に投薬しないと効果がありません。一般的には発咳が始まる２週間前くらい前から投薬を開始するのが効果的です。

ワクチンに関しては、次号で述べます。

表２　マイコプラズマ肺炎に対する抗菌剤の効果　―野外試験―

実験群	薬　剤	菌の分離率	病変保有率	病変値	体　重		飼料要求率
					１ヶ月齢	６ヶ月齢	
1	50ppm	10/24(42%)*	18/24(75%)	2.7**	7.6±1.3	110.1±8.8*	2.89
2	無投薬	10/12(83%)	10/12(83%)	12.4	7.7±1.4	102.8±9.4	3.16
3	100ppm	23/40(58%)	23/40(58%)	8.9*	7.3±1.6	101.4±13.0	2.86
4	無投薬	14/20(70%)	18/20(90%)	23.1	7.3±1.6	95.3±13.5	3.18

*,**：無投薬群との間に有意差あり（*：p<0.05, **：p<0.01）

ト◆ピ◆ッ◆ク◆ス

ホクレンの種豚センターが業務表彰

ホクレンピラミッドのＧＧＰ・ＧＰ農場であるホクレン滝川スワインステーション種豚センターが、平成20年度の業務表彰を受けました。業務表彰とは企業でいえば社長賞、組織内とはいえ数多いホクレンの全事業の中から選ばれ、特に高い功績をあげた事業として表彰される大変名誉ある賞です。20年度は３件の表彰がありましたが、畜産関係では唯一、同センターの新種豚センターの立上げが「ＳＰＦ種豚の供給体制の充実に向けた取り組み」として高い評価を得、みごとに表彰を受けました。

昨年11月19日、第61回農協法公布記念式典の際、表彰式が執り行なわれ、同センターの大久保真場長と高谷和宏考査役が出席されました。

受賞者代表として表彰状を受け取った大久保場長は、「この栄えある表彰は私たちだけが受けたとは思っておりません。これまでの基礎を築いた諸先輩の皆様、そして種豚センターの設置にご尽力いただいた関係諸氏の皆様とともに受けたと考えており、心より感謝を申し上げます。私たちはこれを励みとして、今後も一致協力してより良いＳＰＦ種豚の安定供給と、養豚のさらなる振興に貢献したいと思っています」と喜びを語って下さいました。

表彰式に臨んだ滝川スワインステーションの大久保真場長（前列右から2人目）と高谷和宏考査役（前列右端）

今回の受賞は、ホクレンのＳＰＦ豚事業が高い評価を得たという点で、協会としても大変うれしいことです。今後ますますの事業推進に期待がかかります。

会員／読者のページ・会員／読者のページ・会員／読者のページ

ソーセージ作りを体験

㈱シムコ　**三田村祐子**

昨年11月末、茨城県鉾田市の末岡弘行さんの所でソーセージ作りをさせていただきました。ＳＰＦポークを原料にした末岡さんのソーセージ手作り歴は10年以上、といっても本職は獣医さんです。地元の小学校でも教室を開き、子どもたちに手作りの楽しさを教えているそうです。噂には聞いておりましたが、実際に参加できるなんてステキ、という思いで参りました。気さくな養豚家の奥様方の仲間に入れていただきましたが、皆さん手慣れた様子で末岡さんとは言葉要らず、という感じでした。

正直あんなに真剣になったのは久しぶりでした。肉が傷まないように氷水に手を浸し、挽肉をコネコネ練り合わせ、先生のＯＫが出たところで香辛料と赤ワインを混ぜ、さらにコネコネ…いよいよ羊の腸に詰めていきます。パンクしないように詰めるのは緊張しました。赤ワインを入れるのは、色をよくするのと防腐効果のためだそうです。自分が手がけたできたてのソーセージはいうまでもなくおいしく、愛着も湧きました。原料はＳＰＦポーク、添加物もないからか、市販のものより肉のうま味がしっかりわかる味でした。

ソーセージ作りに参加された皆さん（右から3人目が末岡さん、左隣が筆者）

末岡さんからは「地産地消」ということを教わりました。食料自給率の低下が騒がれる中、ソーセージに限らず、「地産地消＋手作り」っていいですね。地元の生産者がわかる安心、おいしさ倍増、仲間とのコミュニケーション、とよいことだらけです。腸に肉を詰める機械は雑貨屋さんにも売っているそうです。ご家族やお友達と作ってみても楽しいかもしれませんね。

紹介●ＳＰＦのお店⑧ ㈲佐藤精肉店

東京都豊島区高松1-13-8
TEL.03-3955-1610

東京・池袋にほど近い豊島区高松。地下鉄要町の駅から徒歩５分の住宅街に佐藤精肉店があります。こちらは店頭販売中心の支店。本店もすぐ近くですが、主体は学校給食。豊島区などの小中学校・保育園約40校に納入しています。従業員は本店・支店合わせて６人、枝肉仕入れの肉のカット、調製から配達まで、この人数でこなすそうです。

取材は金曜日の午後にと指定されたのは「土日学校が休みで、給食用の準備がない分、少しは話ができるから」と支店長の片岡龍美・常務取締役営業部長。他の日は立話もままならぬ忙しさなのだとか。店頭販売の豚肉は認定農場・㈱林商店肉豚出荷組合の「林ＳＰＦ」。１年ほど前、同組合が豊島区で開催した消費者交流会がきっかけとなり、林商店から直接の依頼があって仕入れるようになったそうです。

もともと店頭販売の豚肉は特に吟味していたという片岡店長。ＳＰＦポークの評判を聞くと「とてもいいですよ。やわらかくて味がいいとわざわざ自転車に乗って買いに来るお客さんもいます。こだわりを持っている消費者は必ずいる。実際この不況下で店頭売上げは伸びています。何といってもお客さんの口コミの力です」。さらに「消費者に理解してもらうには食べてもらうのが一番。うちは惣菜もすべて手作りです。揚物も待たせるけど顔を見てから揚げる。これからもまじめに間違いのないものを届けてもらいたいですね。売り手側も自信を持ってすすめますから」。

支店の前で。左が片岡店長。

●協会からのお知らせ●

●引き続き地域研修会を実施
３月に盛岡で開催、他の地区は継続事業で

３月19日、東北地区の地域研修会が、岩手県盛岡市のいわて県民交流情報センター・アイーナを会場に行なわれました。参加者は50名、19年度を大きく上回る農場の方々にご出席いただきました。

講師を務めたホクレンの岩瀬俊雄技監（右）

今回のテーマは「生産成績の向上と飼養管理のポイント」ということで該当地区のＣＭ農場の生産成績の分析、細菌病に関する解説などに加え、ホクレンの岩瀬俊雄技監による北海道ＳＰＦ養豚の現状についての講演が行なわれ、現場ですぐに役立つ内容となり参加者からも好評を得ました。引き続き他の地区においても今年度継続事業として開催いたします。

●理事・認定委員の交代

組織内人事異動に伴い、ホクレンピラミッドの理事が吉田英雄氏から山内一広氏に代わりました。また、シムコピラミッドの認定委員が三宅真佐男氏から上大迫秀作氏に交代いたしました。

●ＳＰＦ豚研究会から●

●研究会が6月26日に開催されます

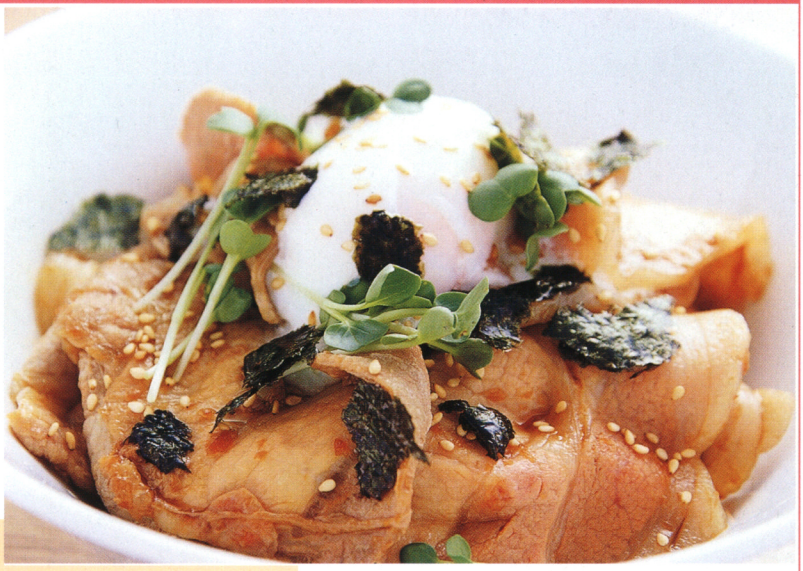
第19回日本ＳＰＦ豚研究会が６月26日（金）、東京大学・山上会館にて開催されます。詳細は**日本ＳＰＦ豚研究会事務局**（伊藤忠飼料㈱研究所内）までお問い合わせ下さい。

TEL：0287−64−3652　FAX：0287−63−8384

かんたん、おししい　いのこ家林シェフおすすめ、ＳＰＦポークレシピ

やわらかしょうが焼き丼 とろとろ玉子のせ

レシピ提供：いのこ家社長・総料理長・林　勝



今回のメニューは定番中の定番、しょうが焼き。家庭でもおなじみのシンプルな料理ですが、ＳＰＦポークの特長を生かした作り方のコツを教えていただきました。丼にして、とろとろふんわりの温泉玉子をのせればまた格段のおいしさです。

材料（4人前）

ＳＰＦ豚ロースしょうが焼き用　480g（1人分4枚）
卵　4個
ご飯　どんぶり4杯分
カイワレ大根　半パック　海苔　少々　白ごま　少々
Ａ<しょうが焼きのタレ>
　おろししょうが少々　しょうゆ大さじ3　酒大さじ3　砂糖大さじ3

つくり方

① 68℃のお湯に卵を入れそのまま18分、取り出して冷水に落とし、温泉玉子を作ります。
② Ａを合わせてしょうが焼きのタレを作ります。
③ ②をフライパンに入れて温めます。
④ 沸いてきたら肉を入れてしゃぶしゃぶするような感じで肉に火を通します。
⑤ どんぶりにご飯を盛り、④を乗せ、真ん中にくぼみを作って温泉玉子をのせます。
⑥細かく切ったカイワレともみ海苔をのせ、白ごまをふってできあがりです。

【林シェフのひとこと】
ＳＰＦポークのやわらかさを生かすには、フライパンで焼くのではなく、低温で火を入れる感じで火を通して仕上げるのがコツです。ＳＰＦポークの特長が引き立ちますのでお試し下さい。

●認定情報●

●平成21年度認定農場

[3月認定]（有効期間：平成21年3月12日から22年3月31日まで）

北海道・ＪＡ全農種豚開発センター、**秋田県**・㈲十和田湖高原ファーム、全農畜産サービス㈱由利本荘ＳＰＦ豚センター、㈱シムコ雪沢ＧＰ、**宮城県**・サンエス丸森農場、**茨城県**・㈲中村畜産、**千葉県**・飯田武雄養豚場、石毛章俊養豚場、平野英夫ＳＰＦ豚農場、鈴木良雄養豚場、飯田養豚、㈱シムコ館山事業所、㈲ピギー・ジョイ繁殖農場、㈲ピギー・ジョイ肥育農場、㈲伊藤養豚飯岡農場、㈲鏑木ピッグファーム、**長野県**・（農）エスピーエフこがねや第二農場、ＪＡ全農長野ＳＰＦ繁殖センター、ＪＡ大北白馬アルプス農場、**富山県**・㈱シムコ八尾育種改良センター、**島根県**・奥出雲ファーム㈲、**山口県**・プライフーズ㈱ハイポーカンパニー山口農場、**愛媛県**・ＪＡえひめアイッパクス㈱天貢農場、**熊本県**・全農畜産サービス㈱西日本原種豚場、新古閑養豚農事組合法人、㈲七城ＳＰＦファーム、㈲やまとんファーム、㈲ピッグファーム陳、**鹿児島県**・鹿児島いずみ畜産㈱出水農場、鹿児島いずみ畜産㈱阿久根農場　（以上30農場）

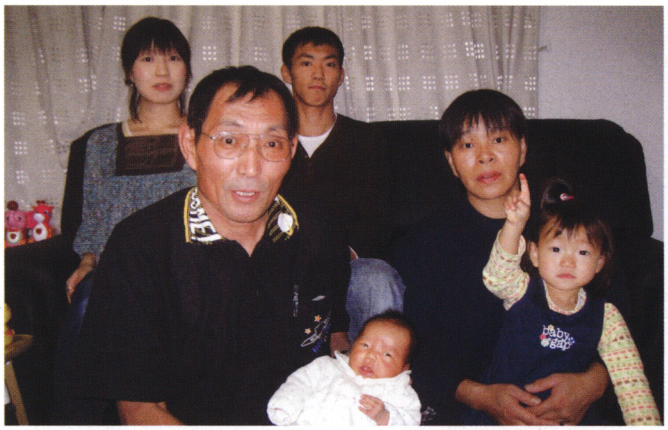
※次回認定委員会は平成21年6月4日の予定

SPFのひと

㈲鈴木ビビッドファーム

鈴木　正さん
美恵子さん
康裕さん

●北海道名寄市



お孫さんを抱く正さんと美恵子さん。後列は康裕さん夫妻。

「いきいき、元気な豚作り」を目指す日本最北のＳＰＦ豚農場

日本最北のＳＰＦ豚認定ＣＭ農場である㈲鈴木ビビッドファームは「きらきら、いきいき、北の都」の北海道名寄市にあります。社長の鈴木正さん（58歳）は、８年前に、今までのコンベ養豚からＳＰＦ養豚への転換を一大決心して、㈲鈴木ビビッドファームを立ち上げ、母豚150頭規模の一貫生産農場を新設しました。コンベ時代に、いろいろな病気に悩まされてきたことから、「何としてもＳＰＦをやりたい」との強い信念と実行力で実現したものです。農場名の「ビビッド（vivid）」は「いきいき、元気な」名寄市から取りました。

農場内では、社長の正さんが全体の統括と豚舎・豚房の洗浄、息子の康裕専務が繁殖・種付、奥さんの美枝子副社長が分娩・哺育をそれぞれ分担しています。

農場の基本方針は、より高い衛生レベルを実現すること。夏は30度を超え、冬はマイナス30度を下回る、非常に寒暖差のある厳しい環境にあって、暑熱対策と寒冷対策の両方にも力を注がなければなりません。それでも、正さんは、「一番大切なのは、洗い。スノコの裏まで、エサ・ラインの上まで、徹底してやる」。

また、高い清浄度に立脚した高い生産性を目指す上で、康裕さんは「毎日、すべての母豚のボディ・コンディションを確認する」とのこと。実際、直近の分娩率は96％を超えています。

加えて、生まれてきた子豚達を上手に育てているのが美枝子さん。「子豚を１頭１頭愛情を持って育てる」というように、直近の平均離乳頭数は10.5頭／腹を超えます。

こうした日々の努力の積み重ねの結果、全農系生産成績集計では、平成16年に肥育部門で全国第１位（26.4頭／母豚／年）となりました。

三人の努力の結晶である豚肉は、道北地区に数店舗を展開するスーパーマーケットで販売されているほか、名寄市内の精肉店や農場の近くにある地元の農畜産物を使った料理を提供するレストランなど、地域に根ざした場所にも供給されています。「消費者に安心して食べてもらえるために、これからも汗を流します」という気持ちに応えるかのように、お店は連日大盛況でリピーターも多いとのこと。

「規模拡大」と「北海道ブランドとしての本州への発信」をキーワードに三人の結束は固く、康裕さんの奥さんと二人のお子さんも大きな応援団となって、その夢を後押ししています。

（ホクレン旭川支所畜産生産課　俵　英雅）

編集後記　新しい年度のスタートとなりました。平成もあっという間に20年を過ぎ、昭和は遠くなりにけり、といった感もあります。戦後最大の不況、経済危機と騒がれ、政治も混迷し、養豚を取り巻く環境も厳しくなるばかりです。一方で農林水産業には余力が、チャンスがある、という声も聞かれます。皆さんの努力の成果かもしれません。今年協会は設立40周年を迎えました。会員に喜ばれる記念事業ができればと考えております。皆さんのご協力をお願いいたします。（K）

日本ＳＰＦ豚協会認定農場産シール
このマークは
日本SPF豚協会の
登録商標です

日本SPF豚協会だより
第35号　2009年4月1日発行（季刊）
発　行　一般社団法人 日本ＳＰＦ豚協会
〒101-0032　東京都千代田区岩本町1-8-2
TEL.03-5835-5375　FAX.03-5835-5376
e-mail：j.spf.a@nifty.com
http://www.j-spf.com/
発行人　赤池　洋二
編集人　林　　哲